



祝祭日には



を掲げよう

金山町町制施行101周年記念企画

# かねやま未来図

町制施行100周年を迎え新たな一步を踏み出した金山町。「金山の未来」をテーマに各地区からご寄稿いただきました。この節目の年に金山町の未来の姿を想像し、共に希望に満ちた地域社会を築いていきませんか？

## 守り継ぐ宮地区

宮地区 区長 <sup>やぐち</sup> 矢口 <sup>まさる</sup> 勝さん



▲宮地区お歳灯

【地区】 20世帯/47名 ※令和8年1月末時点

宮地区は令和8年1月末現在、20戸47名が暮らす地域です。10年前と比較して戸数は6戸減、人口は47名減少しており、この10年で小中学生が0名となるなど、少子高齢化と担い手不足は深刻な課題となっています。しかし、この地には守り続けてきた大切な文化があります。私たちを見守る竜馬山は神秘的で風格ある山であり、東の大平山は春から秋にかけて田畑の神として人々の信仰を集めてきました。有屋の歴史は古く、かつては三香坊寺や倍林寺があり、神室修験の山伏たちで賑わったと伝えられています。村の鎮守である明神様（正一位稻倉魂命）は、災厄から人々を守り、豊作やイボ取りの神様として今も親しまれています。山の神、竜馬山のお前仏、お稻荷様や地蔵様など、多くのお宮に守られたこの地だからこそ「宮」という名が与えられたと考えています。私たちは、住民の連携を大切に、高齢者や少人数でも継続できる形を工夫しながら、この大切な宮地区を次世代へと繋いでいきたいと思っています。

## 地域に眠る支え合いを掘り起こす

柳原地区 区長 <sup>みかみ</sup> 三上 <sup>しげゆき</sup> 重幸さん

「助けて」「助けるよ」と言える地域づくり東日本大震災から15年、甚大な被害とともに、これからの地域づくりにおいて「想定外」を前提とした強靱な社会をつくるための多くの教訓を残してくれました。私の中では三つ活かされています。一つ目は「事前防災」想定外を想定することを学び、柳原・入有屋・下向地区において、自主防災組織を形成し、防災について住民とともに考える体制づくりを進めています。二つ目は、「地域コミュニティの絆」共生コミュニティをつくることを学び、元気の素づくり事業を掲げ、顔が見える関係性づくりを進めています。三つ目は、「人口減少を見据えた地域づくり」生業の連携が必要なことを学び、「軽トラ市」を開催しながら、住民のセカンドビジネスに繋がればという思いから進めています。これからも、1人1人の小さな動きを大切に、「今」を築き上げていきたいです。そうすれば、いつかは！といった思いの中で、住民に寄り添っていきたくと思っています。



▲柳原まつり

【地区】 41世帯/106名 ※令和8年1月末時点

の心に残る事でしょう。

編集  
後記

今年の冬はスキーがアツい年となりました。口ごころの厳しい練習に耐え抜き、掴み取った栄光は私たちに大きな感動と勇気を与えてくれました。その背景には、口ごころから選手の健康面をサポートし、励まし続けたご家族の皆さん、的確で熱心な指導者の皆さん、そして自分事のように生徒を熱く応援した応援団の皆さんの支えがありました。選手個人の力はもちろん、一丸となって戦うチーム力の大切さと素晴らしいさを改めて実感した冬でした。まさにスキー黄金時代といえるのではないのでしょうか。雪解けの季節は近づいていますが、この冬の感動は、いつまでも私たちの心に残る事でしょう。

### 金山町の人口は、4,535人（1月末現在）

男性	2,249人 (-11)
女性	2,286人 (-19)
世帯数	1,657世帯

▼1月の異動

出生	2人
死亡	12人
転入	3人
転出	23人